

「覆い」の中身

前回、私たちの心に「覆い」が掛けられていることを学びました。この「覆い」が掛けられていることの現れの1つは、この「覆い」が、心を「高慢」にさせることです。

誰かにキリストの話をしようとする、「自分はそう云うことに興味ないから」とか「他の宗教を信じているから」と、さほど信じていなくても断わられます。私には関係ない！ムクムクとそういう気持ちが湧いてくるのです。神様は救いの光を与えて下さいますが、「覆い」による高慢は、神の光を跳ね除けます。「高慢」はキリストの敵です。

昔の話ですが、ある夜、航海中の船長が遠くの方に光を見て、通信師にメッセージを送るよう命じました。「南に10度、そちらの進路を変えて下さい」直ぐに返事が来ました。「北に10度、そちらの進路を変えて下さい」高慢な船長は挑戦を受けて怒り、もう一度メッセージを送りました。「南に10度、そちらの進路を変えなさい。こちらは船長だ」と、「北に10度、そちらの進路を変えて下さい。こちらは三等兵のジョーンズです」船長はこちらの命令をきかない三等兵を脅そうと思って、三度目のメッセージを送りました。「南に10度、そちらの進路を変えなさい。こちらは戦艦だ！」最後の返事が返ってきました。「北に10度、そちらの進路を変えて下さい。こちらは灯台です！」

聖書の学び

I、「覆い」は人を高慢にする

1、Ⅱコリント4:4 を開きましょう。

悪魔は人の心にどのように「覆い」を掛けるのでしょうか。

信じない者たちの思いを「暗くし」のギリシャ語の意味を見ましょう。

暗くし = トウフロー → 他の訳には、(思いを弱くして、目をみえなくする)



語源: トウフォマイ(煙を作る) --- 派生語: トウフォス(高慢な・思い上がる・

(tuphomai)

(Tuphos) 偉らそう・のぼせ上がる)

→ 高慢な煙の幕で覆い、暗くし、神様の栄光を見えなくした。

2、この世の神(悪魔)が高慢の心を人間に仕掛けたのはいつでしょうか。

(創世記3:1)

アダムの弁明:「私のそばにいたようにと**あなたが** 与えて下さったこの女が…」
(創世記3:12、13)

アダムの心の変化 = 高慢になってしまった →

神様の前に、私は悪くない、正しい
と言い張る

アダムは誰に造られたのか? …… **神である主**は、大地のちりで人を形造り、その
鼻にいのちの息を吹き込まれた。(創世記2:7、3:17)

Ⅱ、高慢から出てくるもの

1、「覆いによる高慢」はアダムの心に「プライド」として残りました。
どこから始まったのでしょうか。

① 神様がアダムに与えられた使命 = すべてのもを支配するように (創世記1:26)

全世界を支配する → 維持し、管理する、育て、面倒をみる、指導する。

② 罪を犯し、覆いを掛けられたアダムは、神様から与えられた使命を変えられて
しまいました。(神様に頼る者は弱い者だと思わされる)

・維持したい・管理したいという願望 → → → → 権利を主張する

・育てたい・指導したいという願望 → → → → 服従させたい

2、「覆いによる高慢」はエバの心に「他との比較」として残りました。
どこから始まったのでしょうか? (創世記3:5~6)

① エバが誘惑に陥り、善悪の木の実を取って食べたとき

蛇が言った「神のようになって、善悪を知る者となる」という言葉から (創世記3:5)



エバは、自分たちと神様を比べた (創り主と、造られたものが比べられるはずはない)

② 罪を犯し、覆いを掛けられたエバは、神様から離れ、いつも人と比べ、気にする
ようになってしまいました。(人に何か言われなにか気にする)

美味しそうなもの、目に慕わしいものが好き、賢くするものが好き(創世記3:6)



↓ 他人と比較して、見栄を張る



うらや 羨ましく思い、妬み、しつとする (ヤコブ1:14、15)